

更なる深みへ

# 若林 顕

## ピアノ・リサイタル

### 2020

PROGRAM

ラフマニノフ: 楽興の時 Op.16~

第1番変ロ短調、第2番変ホ短調、第3番ロ短調、第4番ホ短調

Rachmaninoff: Moments musicaux, Op. 16; No. 1 in B minor / No. 2 in E-flat minor / No. 3 in B Minor / No. 4 in E minor

シューマン: 幻想曲ハ長調 Op.17

Schumann: Fantasie C-dur, Op. 17

ラヴェル: 水の戯れ

Ravel: Jeux d'eau

ショパン: 24のプレリュード Op.28(全曲)

Chopin: 24 Preludes, Op. 28

若林 顕(ピアノ) Akira Wakabayashi, piano

2020 11/23 [月・祝] 14:00開演(13:15開場)

23rd (Mon+Holiday) November, 2020 at 14:00 (13:15 doors open) Tokyo Metropolitan Theatre Concert Hall

## 東京芸術劇場コンサートホール

チケット料金(全席指定) S席 5,000円 / A席 4,000円 / B席 3,000円

■プレイガイド アспен 03-5467-0081

イープラス <https://eplus.jp/wakabayashi2020/>

チケットぴあ 0570-02-9999 <https://t.pia.jp/> (Pコード: 184-844)

東京芸術劇場 ボックスオフィス 0570-010-296(休館日を除く10:00~19:00) <https://www.geigeki.jp>

主催・お問合せ先: アспен 03-5467-0081 協賛: 株式会社ヤマハミュージックジャパン / アーティストサービス東京

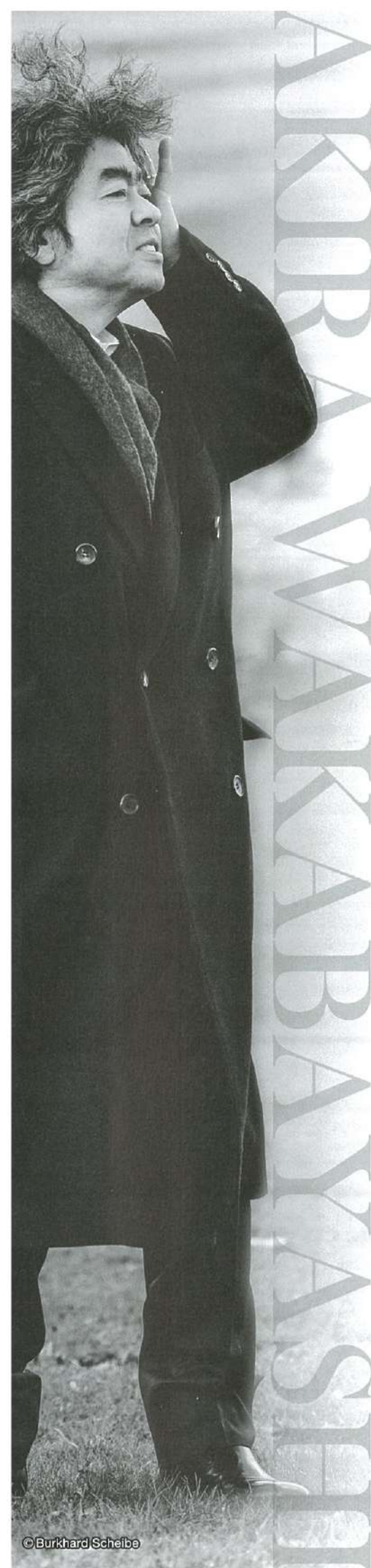
後援: 一般社団法人 全日本ピアノ指導者協会(PTNA) 特別協力: 株式会社パワーズアソシエイト

※チケット料金には消費税が含まれております。 ※やむを得ず、公演の内容が一部変更になる場合がございます。予めご了承ください。 ※未就学児のご入場はご遠慮ください。

ドイツ、ロシア音楽等に加え、近年集中的に取り組んでいるショパンでも、  
更なる深化を続けているヴィルトゥオーゾ・ピアニスト若林顕が満を持して放つ、  
伝説のサントリーホール・リサイタル以来4年ぶり、瞠目すべき必聴のリサイタル!

© Burkhard Scheibe

Aspen



オーケストラに匹敵する表現力を誇る、日本を代表するヴィルトゥオーゾ・ピアニスト若林顕が4年ぶりにソロ・リサイタルを行う。

2014年、16年とサントリーホール(大ホール)でソロ・リサイタルを行って高い評価と圧倒的な支持を得てきたが、この間、現代に連なるピアノ音楽の原点・ベートーヴェンのピアノ・ソナタ全32曲を、古今の名曲を織り交ぜつつ、約3年にわたって演奏する全22回の壮大なコンサート・シリーズをセルフ・プロデュースで敢行(自身では3回目となる全曲シリーズ)。

18年4月からは同じくセルフ・プロデュースで、ショパンの全ピアノ作品(ピアノ協奏曲室内楽版やチェロ・ソナタ等含む)を3年間かけて、全15回のシリーズで展開中である。

一方レコーディングでも、チャイコフスキーの協奏曲など発売するすべてのCDが「レコード芸術」誌で特選盤に選ばれるほど高い評価を得ているが、最新盤のショパン:エチュード集(全曲)では、「これは超弩級の形容がふさわしい、稀に聴くほどの名演譜」、「知情意の均衡のとれた名演」と評されている。

この4年間にわたる虚無僧のような孤高の活動の精華が、いよいよ今回のリサイタルで聴きとれるのは間違いない。睨目すべき必聴のコンサートの所以である。

## 若林 顕(ピアノ) Akira Wakabayashi, piano

20歳で第37回ブゾーニ国際ピアノ・コンクール第2位、22歳でエリザベト王妃国際コンクール第2位の快挙を果たし、一躍脚光を浴びた。その後国内外の多数のオーケストラとの共演や国内外でのソロ・リサイタル等、多忙な演奏活動を展開し、現在に至るまで常に第一線で活躍し続けている。

東京芸術大学で田村宏氏に、ザルツブルク・モーツァルト音楽院、ベルリン芸術大学でハンス・ライグラー氏に学ぶ。第3回出光音楽賞、第10回モービル音楽奨励賞、第6回ホテルオークラ賞受賞。

2002年にニューヨーク・カーネギーホール(ワイル・リサイタル・ホール)で鮮烈なリサイタル・デビューを果たし、カナダ・トロントの「ミュージック・トロント・チェンバー・ミュージック・シリーズ」やシカゴの「マイラ・ヘス・リサイタル・シリーズ」で大成功を収めて再招聘されるほか、フランス・ナントでの音楽祭「ラ・フォル・ジュルネ」、ストックホルムの「アマリナ・リサイタル・シリーズ」などにも出演。また、英国マンチェスターの「ノーザン・カレッジ・オブ・ミュージック」でのマスタークラス、フランス・ティエヌの「ミュージック・アルプ」Music Alp等、活動領域を着実に拡大している。

共演したオーケストラは、NHK交響楽団をはじめとする国内の主要なオーケストラのほか、ベルリン交響楽団、サンクトペテルブルク交響楽団、ロシア・ナショナル管弦楽団、エーテボリ交響楽団、ノールショピング交響楽団、リンブルク交響楽団、パドゥーラ管弦楽団、スコットランド室内管弦楽団といった海外の名門オーケストラも多数。ゲンナジー・ロジェストヴェンスキー、ゲルト・アルブレヒト、アレクサンドル・ラザレフ、ダニエル・ハーディング、オスモ・ヴァンンスカ、ウラディーミル・スピヴャコフ、ゲルハルト・ボッセ、ヘルムート・ヘンヒエンといった名指揮者とも数多く共演している。

室内楽の分野では、カルミナ弦楽四重奏団、ライブツィヒ弦楽四重奏団、ウィーン八重奏団、コリア・ブラッハー、ステイーヴン・イッサーリス、カール・ライスター、フランソワ・ルルー、ラデク・バボラクなど、内外の名手達と数多く共演し、好評を博している。また、近年はヴァイオリニスト鈴木理恵子とのデュオで、作品の本質に迫る深い音楽性が各地で非常に高い評価を受けている。

レコーディングではこれまでに多数ソロ・アルバムをリリース。2013年以降続々とリリースされた、「ラフマニノフ:ピアノ・ソナタ第2番、前奏曲」、「ベートーヴェン:3大ピアノ・ソナタ」、「チャイコフスキー:くるみ割り人形(ピアノ独奏版・世界初録音)」、「リスト:ピアノ作品集」、「チャイコフスキー:ピアノ協奏曲第1番(ラザレフ指揮日本フィルとのライブ)」、「ショパン:エチュード全集」は全てレコード芸術・特選盤となり、極めて高い評価を受け続けている。

2018年リリースの最新盤「ショパン:エチュード全集」では、レコード芸術で「これは超弩級の形容がふさわしい、稀に聴くほどの名演譜である...詩人ショパンの微笑が、難技巧を超えて輝く名演...これを持っていた、」(濱田滋郎氏推薦)、「1音の存在感、鉄壁の技術と洗練された音楽性...唯一無二の音楽が響いている。知情意の均衡のとれた名演である」(那須田務氏推薦)と評された。

また、2014年以降リリースされた鈴木理恵子とのデュオによるCDも「シューベルト:ヴァイオリン・ソナタ集Vol.1」、「レスピーギ&フランク:ヴァイオリン・ソナタ」(いずれもレコード芸術準特選盤)、「モーツァルト:ヴァイオリン・ソナタ集Vol.2, Vol.3」(いずれもレコード芸術特選盤)、と常に高い評価を受けている。

リサイタルにおいては2014年に続き、2016年にも再び、サントリーホール(大ホール)でソロ・リサイタルを行い、「類のない高次元の名演」「圧巻のリサイタル」と評され大成功をおさめた。

また、自身では3回目となる「ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ全曲シリーズ」を2017年に完結し、2018年より「ショパン:ピアノ作品全曲シリーズ」を新たに開始。「エチュードOp. 10全12曲」を含むリサイタルでは、「完璧なエチュード・ヴィルトゥオーゾ・ピアニストの本領発揮」と大絶賛された。

2020年にはドイツでソロ・アルバムのレコーディングが予定されている。

オフィシャルHP <http://www.wakabayashi-akira.com/>